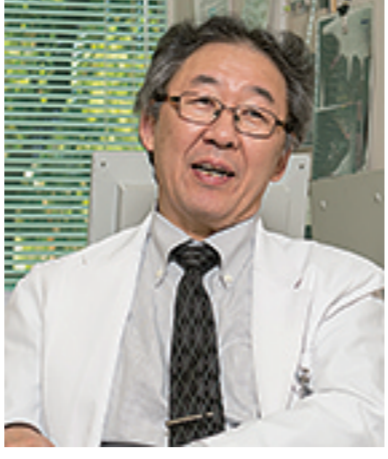




坪院長の健康講座

泌尿器科で治療する臓器と主な疾患について



院長 坪 俊輔

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。今回は泌尿器科で治療する臓器とその主な疾患についてお話しします。

図示(次項掲載)しましたように、男女の主な違いは陰茎・陰囊内容および前立腺の有無です。副腎は尿路と交通はなくホルモンを出す内分泌器官で、ホルモン分泌過多をきたして高血圧・肥満などの原因となる副腎腫瘍(クッシング症候群・原発性アルドステロン症・褐色細胞腫など)の摘出手術を行います。

尿路(腎盂・尿管・膀胱)で多いのが結石です。尿管結石は血尿とともに吐き気を伴う患側の激しい腹痛・背部痛が特徴的で、まず疼痛コントロールを行った後、自然排石が難しくれば体外衝撃波結石破碎(ESWL)や経尿道・経尿管的に内視鏡での結石破碎術(TUUL)を検討します。また腎結石にも同様な治療が行われます。膀胱結石では自然排石が難しい症例で、内視鏡を用いて経尿道的

碎石術・摘出術を行います。尿路には移行上皮腫瘍という共通した組織型の腫瘍ができ、これは男性に多く腎盂・尿管・膀胱では膀胱腫瘍が最多です。症状は血尿の他に、上部尿路腫瘍では血尿の他に、膀胱腫瘍では頻尿・排尿痛などを伴うことがあります。治療は手術による摘出が原則で、膀胱腫瘍ではまず経尿道的内視鏡切除術を行います。上部尿路腫瘍では開腹や腹腔鏡を使用しての腎尿管摘出術が行われます。なお腎臓では、腎盂腫瘍とは別に腎実質にできる腎腫瘍(腎細胞癌)という病気があります。血尿や疼痛を伴うこともあり、無症状で検出されたものも少なくありません。検査やCTで偶然見つかる事の方が多いようです。治療は開腹や腹腔鏡を使って腎摘出手術を行います。

中高年男性の排尿障害の原因として最も多いのが前立腺肥大症です。尿勢の低下・頻尿・夜間頻尿などが主症状で、時に尿閉をきたしたり肉眼的血尿の原因になります。治療は薬物療法が第一選択です。最近では薬の開発が進み、手術が必要になる症例は20・30年前の2割弱くらいでしょうか。なお手術は経尿道的内視鏡手術が原則で、高齢の方でも安全に受けていただける治療です。男性の泌尿器科腫瘍で最も多いのが前立腺癌です。症状は排尿障害が多いのですが、検診で前立腺癌の腫瘍マーカーであるPSA(前立腺特異抗原)の高値を指摘されて受診される無症状の方も多々あります。治療は進行度・癌の悪性度・年齢・体力などを総合的に判断して、根治手術・内分泌療法(抗男性ホルモン療法・放射線治療・経過観察(PSA監視療法)などを選択します。排尿障害の原因として男性の尿道狭窄も少なくありません。以前に患った尿道炎が原因の事が多いようです。治療は尿道拡張や内視鏡的狭窄切開を行います。なお男女を問わず、排尿効率の低下や尿路感染等の原因が

次項へ続く



あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願ひ致します

院長 坪 俊輔
副院長 竹内 豊
副院長 仲山 明宏



新・緊急用発電設備 今春完成いたします

地域の中核を担う医療機関として 今後も万全の体制で地域医療に貢献します

昨年9月6日に発生、厚真町で震度7、道都札幌でも6弱を記録した胆振東部地震の影響により、本道全域を巻き込んだ大規模停電・ブラックアウトでは、患者様に多大なるご迷惑をおかけしましたこと、改めてお詫び申し上げます。この教訓を活かし、昨年のような大規模停電にも対応できる緊急用発電設備の導入を決定しましたが、12月8日に発電機の搬入設置が終わり、今後緊急時に館内へ通電させるための電気工事の着工を経て、今春3月初旬には完工し稼働可能となる運びです。工事期間中は患者様にご不便をお掛けすると思っておりますが、ご理解とご協力をお願い致します。

新・緊急用発電設備の完成により、大規模な停電が発生しても院内で使用する主要機器の電源が確保され、主な業務が遂行できるようになります。また、近年発生が繰り返される自然災害に於いても、電力会社に頼ることなく電源を確保、地域の中核を担う医療機関としての責務を全うすることが出来ます。今後も地域の皆様方に安心して安全な医療を提供できるよう努力致します。

column 待合室 No.48

新年に祈ること

●最近読んだ本の中に「ネトウヨ」という言葉があり、意味が解らず戸惑いました。その言葉は文章中に何回も出てくるのですが、注釈もなく「知らないのは自分だけか？」となぜか恥づかしくなり、意味を調べ始めていました●ネトウヨを「ネトウヨ」と読んでいたのですが、どうやら「ウ」のまま読むようで、意味は「ネット右翼」ということです。ネット社会が作り出した現代の造語でした。もっと深い意味があるのだから勝手に思い込んでいただけに、意外な答えにバカバカしくなった次第です●最近ではこのように解らない言葉が氾濫していて、大概はネット造語が多いようです。ほぼリアルタイムで画像や動画、個人配信の情報やSNS上で飛び交う現在、災害のときなど有益な情報が発信されることも多く貴重な反面、悪意のあるデマもあるようで社会問題化します●ネットの出現で一気にスピードアップした情報産業、情報は早い方が良いに決まっています。新聞も電波もデジタル制作に転換し、スピード化に対応してきましたが、ネットの早さには敵いません●その競争の影響からか「訂正、がやたら多くなった気がします。人名、地名から数字の間違ひまで、テレビ放送では訂正のない報道番組は皆無といっているほど、訂正がオンエアされます。中には訂正の訂正まであったり、多分間違いに気付いていない場面も見受けられます。字幕とアナウンサーのコメントに整合性がなかったり、漢字の読み間違えがあったりしますから、品質の低下が指摘されるどころです●昔の編集現場には「職人、のような人がいて、まるで生き字引のように原稿の誤りに赤を入れました。それがスピード化の煽りを受け、工程が簡略化されたり、校閲そのものが軽く見られる風潮があたります。基本的なチェックが誤り防止につながり、その正確さが報道の信頼につながっていたのですが●今年、いよいよ年号が変わります。平成から新しい時代の幕開けとなる記念の年、情報とともに全てがスピード化してしまっただけの中、「時間をかけ熟慮する」という価値を、今一度見直す時期と感じます。ネットやAI(人工知能)という非常に便利なツールでスピード化された現代、言葉や価値観まで簡略化され、考える力も減退しているのではないかと心配されます。訂正しようのない歴史的間違いが、これから始まる新時代に起こらないよう、新年に祈りたいと思います。

新人スタッフ紹介 仁部由紀子 外来看護師

誠実でありたい!



昨年10月から仲間入りした仁部看護師は、根室生まれで昔小牧育ち。看護師経験は25年になるベテランで、札幌の総合病院でキャリアを積んできました。「専門病院での看護は初めての経験ですが頑張ります」と日々の業務に取り組んでいます。

高校時代はバスケット部に所属、小柄ながらガードで活躍したそうです。スポーツ好きで登山やマラソン、水泳もこなす「今年は伊達近郊で登山など楽しみたい」と笑顔を見せました。伊達の印象は「野菜が美味しいのにビックリ、マチがコンパクトで便利」と気に入っている様子。今後は確実、正確で安心してもらえる仕事に心がけ、「何より誠実でありたい」をモットーに「スタッフからも信頼される看護師になりたい」という目標を掲げました。

新人スタッフ紹介 斉藤 妙子 透析室看護助手

気の利く人材になりたいです!



昨年12月から透析室看護助手となった斉藤さんは、旧虻田町の出身。一般企業からの転進で医療現場での経験はないものの、娘さんが医療事務専門学校への進学が決まったり、姪っさんが看護師になったり「医療に対する興味が高まってきた」と、迷いはありません。

趣味は映画鑑賞と海釣り、釣りは「のんびりした時間が過ごせるから好き」と言い、夏場は友人たちと「月3回くらい行くこともある」と言う入れ込みようです。

勤務の感想は「覚えることが沢山あり大変ですが、頑張ります」と意欲的に取り組んでいます。「早く患者様に覚えて頂けるよう努力します」とも話し、「気が利き、素早く動けるようになりたい」と目を輝かせました。

泌尿器科で治療する臓器と主な疾患について

陰茎の疾患としては陰茎癌をまれに診ることがあります。この疾患もおかしいです。

以上、今回は泌尿器科で扱う臓器と代表的な疾患についてお話ししました。

【図】泌尿器科で治療する主な臓器

副腎、腎、腎盂、尿管、膀胱、精のう腺、尿道、陰茎、陰のう内容(精管、精巣、精巣上体)

ない状況で頻尿・尿意切迫・尿失禁などが続いて生活の質(QOL)を大きく損なう状態は過活動膀胱(OAB)と呼ばれ、治療は抗コリン剤・β3刺激薬の投与が有効です。精巣腫瘍は比較的若い年代に多く、睾丸の腫脹・硬度的変化がないかなど、時には自分で触れてみるSelf Examinationが大切です。

と患ったら早めに専門医の受診が必要です。急性感染症では、女性の急性膀胱炎が最多です。通常抗菌剤を主とした短期間の投薬治療で完治しますが、難治性・再発性の場合には膀胱腫瘍など基礎疾患の有無につき検査が必要です。なお女性の場合、特に原因が無いにもかかわらず発熱を伴う膀胱炎症状・側腹部痛、背部痛をきたす急性腎盂腎炎があり、抗菌剤投与を主として慎重な治療が必要となります。男性の場合発熱を伴う尿路感染症の多くは急性前立腺炎或いは急性精巣上体炎で、後者の場合は陰囊内容の腫脹・疼痛を伴い鑑別が容易です。両疾患とも抗菌剤・抗炎症剤投与を主として慎重な治療が必要となります。

透析室患者様忘年会

昨年12月9日開催

透析室主任 中井 純子

毎年恒例となりました「透析室患者様忘年会」を昨年12月9日(日曜)に、市内のホテルロイヤルを会場に開催しました。ご参加頂いた患者様をはじめ、当日都合がつかずご参加頂けなかった患者様、ご家族様には日頃より当院透析室の運営にご理解を賜っておりますこと、紙面をお借りし深く感謝申し上げます。

今回の忘年会は27名の患者様やご家族様と、24名のスタッフの参加があり、坪院長の挨拶とともに幕開けいたしました。毎年ご参加頂いている患者様、今回初めてご参加された患者様が共に楽しい時間を過ごしました。

スタッフと同じテーブルを囲み皆様と食事しながら、会話の中で趣味やご自宅での生活の事などをお話ししながらのお話は、参考にもなる内容の濃いものがあり、今後の業務に活かして参りたいと思います。

ビンゴ大会やカラオケではスタッフも一緒に笑い、2時間という短い時間ではありましたが、同じ空間の中で楽しく過ごせたひとは、貴重な時間となり、大変有意義な会となりました。

この機会を一つの節目に、今年も患者様皆様にとって良い一年となりますよう心よりお祈りいたします。また、今年も透析室スタッフ一同、患者様皆様に寄り添いながら、サポートさせて頂く所存でございます。どうぞよろしくお願い致します。